

大分県方言の依頼談話¹ —60年の変容—

The scenes of request on the Dialect in Oita Prefecture
— 60 years change —

杉村孝夫

Takao SUGIMURA

国語教育講座

(平成26年9月30日受理)

はじめに

杉村(2013)では, 大分県方言の第3次調査(2009-2011年収録)の朝の場面(ほとんどが近所に何かを借りに行くという依頼の談話)13地点のうち7地点の3世代の談話を資料として依頼の場面の機能要素(依頼のための働きかけの機能を持った要素)の連鎖を依頼者と被依頼者の相互作用として分析を行った。

杉村(2014)では, 大分県方言の第2次調査(1983-1985年収録)の同様の内容の朝の場面の談話を資料として(松田正義・日高貢一郎『方言生活30年の変容下巻』収録の資料)機能要素の連鎖をユニットというまとまりで相互作用をとらえた。

ユニットとは, 依頼者と被依頼者の各発話の相互作用に注目し「相手の発話を受けての発話を連続性のあるひとまとまり」(杉村2014:30)としてとらえたものであり, 「切れ続きの有無と, その内部の内容のまとまり具合によって」(同上)とらえることができる。談話という単位と機能要素という最小単位の間の一まとまりである。

本稿では, 大分県方言の第1次, 第2次と第3次(未分析の6地点も含めた)の朝の場面の談話を分析し, 約60年(第1次は1954-1958年であるから3次の収録開始2009年との年の差は65年になる)の収録年の経年比較および少年層, 青年層, 高年層²の世代比較を行った。

1. 資料

1次～3次の分析対象とした依頼談話数は以下のとおりである³。

表1

	1次収録(1954-58)	2次収録(1983-85)	3次収録(2009-11)	小計
高年層	7	10	10	27
青年層	11	10	13	34
少年層	5	10	13	28
小計	23	30	36	89

¹ 本稿は2009-2011年度科学研究費助成金(基盤研究C)「言語生活50年の変容—大分県方言談話資料を比較して—」および2012-2014年度科学研究費助成金(基盤研究C)「談話における方言の変容—共通語には変化しない方言に注目して—」の研究成果の一部である。研究代表者杉村孝夫, 研究分担者日高貢一郎, 二階堂整, 松田美香。

² 少年層は10代の中学生。青年層は2・30代。1次・2次では20代青年, 30・40代壮年。高年層は収録年により異なり, 1次51～81歳, 2次49～70歳, 3次70～87歳, 平均では1次63歳, 2次58歳, 3次79歳である。1次・2次では40代の壮年と60代の高年が相手の場合, 青年と少年が相手の場合もある。

³ 談話数は, 松田正義・糸井寛一・日高貢一郎『方言生活30年の変容』所収の談話数, 朝の場面であっても依頼ではない場合(勧誘・伝言や雑談の場合)もあるため収録年と世代ごとに異なる。

第1次 1954～1958（昭和29～33）年収録地点のうち『方言生活30年の変容 上巻』⁴に収録されている朝の場面と、依頼の内容は次の通り。

	高年	壮・青年	少年
1 東国東郡国東町	伐木	方言収録協力	—
2 東国東郡姫島村	漁具貸借（不成立）	名簿貸借	道路清掃督促
3 津久見市保戸島	—	—	教科書貸借
4 南海部郡鶴見村大島	—	—	<遊びの勧誘>
5 南海部郡蒲江町深島	—	—	—
6 南海部郡宇目村木浦	—	—	—
7 大野郡緒方町長谷川	<雑談（仔牛の成長）>	共同作業	<出かけの勧誘>
8 大分郡大南町戸次	—	映画券販売	—
9 北海部郡佐賀関町一尺屋	網貸借	集金<青少年>	—
10 直入郡直入町長湯	—	<雑談（飼い牛）>	—
11 直入郡久住都町白丹	刺身皿貸借	—	—
12 玖珠郡九重町飯田	スコップ貸借	筵貸借	—
13 日田郡中津江村間地	—	—	—
14 日田市大鶴本町	—	—	—
15 下毛郡山国村溝部	—	噴霧器貸借	辞書貸借
16 下毛郡耶馬溪村家籠	—	—	鋤貸借
17 中津市北部	庭の花譲渡	ボストンバッグ貸借	辞書貸借
18 宇佐郡長洲町	—	—	—
19 豊後高田市呉崎	—	鋤貸借	—
20 速見郡山香町中山香	ミンチ貸借	打ち上げ手伝い	—
21 西国東郡真玉町上真玉	—	リヤカー貸借<青少年>	—

第2次 1983～1985（昭和58～60）年収録地点のうち『方言生活30年の変容 下巻』に収録されている朝の場面と依頼の内容は、次の通り。高年層11場面（うち1場面は伝言）。壮・青年層10場面，少年層12場面（うち2場面は伝言）。よって各年層とも10場面ずつの依頼の場面の談話を対象に分析をすることができる。大分市戸次，下毛郡山国町溝部，中津市北部の3地点には各年層とも該当場面なし。

	高年	壮・青年	少年
1 東国東郡国東町	—	靴の取り替え	ノート貸借
2 東国東郡姫島村	ズボン合羽貸借	タルク ⁵ 貸借	宿題（のノート）貸借
3 津久見市保戸島	<先発の伝言>	—	—
4 南海部郡鶴見町大島	—	—	宿題のノート貸借
5 南海部郡浦江町深島	たばこ貸借	—	歌のテープ貸借
6 南海部郡宇目町木浦	鎌貸借	—	—
7 大野郡緒方町長谷川	—	椎茸の種貸借	—
8 北海部郡佐賀関町一尺屋	蜜柑容器	防虫薬散布機貸借	<担任からの伝言>
9 直入郡直入町長湯	敷地通行許可	—	数学のノート貸借
10 直入郡久住町白丹	—	書類提出	<体育大会中止の伝言>
11 玖珠郡九重町飯田	スコップ貸借	—	ノート貸借
12 日田郡中津江村間地	籾篩貸借	—	教科書貸借

⁴ 『方言生活30年の変容』は刊行の都合で録音・文字化したものの半数ほどを収録する。「—」は該当の場面が収録されていないことを表す。< >は依頼以外の勧誘や雑談などの内容。1次・2次の収録地点の地名は当時のまま記す。なお、本稿では「老年」を「高年層」と表記を改めた。

⁵ ウエットスーツを着るときに着やすくするためにつける粉。

13 日田市大鶴本町	稲刈り機貸借	歌のテープ貸借	教科書貸借
14 下毛郡耶馬溪町家籠	混合機 ⁶ 貸借	—	空気入れ貸借
15 宇佐市長洲	—	船の修理道具貸借	—
16 豊後高田市呉崎	—	カセットテープ貸借	—
17 速見郡山香町中山香	—	加勢の依頼	—
18 西国東郡真玉町上真玉	チェーンソー貸借	車の便乗	空気入れ貸借

第3次 2009～2011（平成21～23）年に収録した13地点は、次の通り。高年層10（残り3場面は予告、知らせ、提案）。青年層13、少年層13の依頼の場面の談話を対象に分析をすることができる。

	高年	青年	少年
1 東国東郡姫島村	用事	DVD返却	授業プリント貸借
2 豊後大野市緒方町	農作業（予告）	回覧板回送	授業プリント貸借
3 佐伯市	猫車貸借	DVD貸借	授業準備情報
4 大分市戸次	<葬儀の知らせ>	方言収録協力	ゲーム貸借
5 大分市一尺屋	臼貸借	同窓会幹事	アニメビデオ貸借
6 竹田市長湯	玄能貸借	参考書貸借	ノート貸借
7 玖珠郡九重町飯田	筍譲渡	DVD貸借	自転車貸借
8 日田市中津江村	鎌貸借	回覧板回送	宿題プリント
9 日田市大鶴本町	トラック貸借	バケツ貸借	日課表教示
10 中津市山国町溝部	<伐木提案>	バッテリーコード貸借	行事参加
11 中津市北部	庭の花譲渡	卵貸借	教科書貸借（不成立）
12 豊後高田市呉崎	金銭貸借	車貸借	CD貸借
13 杵築市山香町	耕運機貸借	リレー出場	宿題プリント

2. 依頼談話の全体像の例

朝の場面における依頼談話は開始部、本題部、終了部に分かれる。本稿では本題部を対象に依頼の方略を各発話の働きに注目して分析をすすめる。はじめに、実際の依頼談話の全体像の1例を、具体表現（テキストレベル）の要点と依頼の方略の機能<機能要素>とともに示す。

1次 速見郡山香町・高年層 <依頼予告—応答>、<依頼—受諾>、<依頼確認—受諾>の連鎖
開始部<訪問・朝の挨拶>

1f オゴメン。

2m マー オヨリ。

3f オハヨー ゴザイマス。

4m オハヨー ゴザイマス。

本題部

5f タイソー ワシャ キョーワ ムシンニ（お願いに）アガッタンジャガエナー。<依頼予告>

6m イーエ デクルコトウナラ、アンタン キタンジャケー ナンジェン カナユルワエ。<肯定応答>

7f タイソー スマンコッチャガ ワシャ イマ ミソタキオ ションノジャガ、ヒョイト オウツノ（お宅の）ミンチガ タイソー ツゴーガ イー チイーヨッタガ（いいそうだが）、ヒョーイト ワシー マー カシチェ オクルル ヨーナ ゴソーダンナ（ご相談は）デケマイカアンタナー（できないもんでしょかなあ）。<依頼発話>

8m エーエー モツチェ オイデアンタ（いいよ持っておいでなさい）。下略<受諾>

⁶ ガソリンとオイルを混合するもの。草刈り機などに使用。

9f ヘーエ ホンナ スマンケド マー オネガイ シマースアンタ。〈依頼確認〉

10m エーエ ヨ ゴザリマスルアンタ (へえようございます)。〈受諾〉下略

終了部〈別れの挨拶〉

13f ホンナー サヨナラアンタ。

14m サヨナラアンタ。# (終了)

3. 機能要素の検討

2次収録資料の分析である杉村(2014)で示した以下のいくつかのユニットは、1～3次のすべての依頼談話の分析を進めた結果、次のように整理した。

「受諾条件提示」は既に「受諾」の意志の現れとして、「受諾」の変異の一種と考えた。例えば、国東町・少年の「依頼」カシチー (貸して) に対する「受諾条件」キタネーノ ジガ (字が汚い) や、姫島村・青年の「受諾条件」シッケガ キチョンガ イーカエ (湿気があるがそれでもいいか)、宇目町木浦・高年の「受諾条件」ハガ オレチョッテカラ ツカアレルカシラ (歯が折れていて使えるだろうか) は消極的だが「受諾」を表していると解釈できる。

「受諾保留」も「受諾」の変異と解釈できる。日田市大鶴本町・少年の「依頼補強」ダキ チョット カーシテ (だからちょっと貸して) に対する「受諾保留」ウン イーケドー はそれに続く学校の先生の話の後の「受諾」イーヨ ウン と区別して「受諾保留」としたが、これも考慮中ではあるが、「受諾」に向かっていると解釈できる。

「使用注意」は2次真玉町・少年の場面では空気入れ使用上の注意である。

空気入れを借りる依頼をされた少年女子が、それを探すやりとりの後アー アッタアッター。コレ タカインデ クズサンデヨー。(あ あった あった。これ高いんだよ、壊さないでよ) と注意をする。

他に2場面にあらわれるが、随意の要素であると考えられる。

3次 中津江・高年では「鎌使用上の注意」が「受諾」のあとに続く。

15m カマオ カシテモラオートオモチカラ キタケド。(鎌を貸してもらおうと思ってきたけど) 〈依頼予告〉

16f ソチャー イーグレーコッチャネーケド, テー キランヨーニ。(それは勿論いいですけど、手を切らないように) 〈受諾〉〈使用注意〉

3次 豊後高田市呉崎・青年では「車の運転注意」が「受諾」のあとに続く。

9f … イー? イー? (いい? いい?) 〈依頼〉

10m ンー。イーケド, マー キオツケテ ウンテンセナ。オーキーキナ, クルマガ。(うん。いいけど、まあ気をつけて運転しないと。大きいからね, 車が) 〈受諾〉〈使用注意〉

「依頼取り下げ」は依頼が不成立の場合に行われる依頼者の行為である。不成立の場面は1次姫島村・青年, 2次山香町・青年, 1次耶馬溪村・少年, 3次中津市北部・少年の4場面であらわれた。ここでは「代案の提示」も行われる。全体を「依頼不成立」の展開として捉えることとする。

「事情質問」「事情説明」は「情報要求」「情報提供」と捉え直した。依頼の談話の中で重要な役割を果たしているが、依頼実現のための直接的役割ではなく、「配慮」とともに随所に現れるため、間接的に依頼を促進する役割であるとして「機能要素」からは除外した。これらを談話展開の要素に取り入れ、より具体的に展開を捉える方法も考えられる。

4. 「依頼不成立」の場面の展開

はじめに、この展開を具体的に示す。

○依頼—不成立

1次 姫島村・青年

9m …メイボナ, アリヨ カロートモチョンジャケンド。(名簿をな, あれを借りようと思っているんだけど) <依頼予告>

10f アー ヤッチャンナ オランガ ドーショーカ シランヨー。(ああ, ヤッチャンはおらんがどうしたらいいかしら) <否定応答>

13m コマッターナ ソラ。シカシ マタ コー。(困ったなそれは。ではまた来よう) <代案の提示>

2次 山香町・青年は<先行発話><否定応答>の後, 情報交換が行われ<依頼取り下げ>を行う。

3m オヤジ オルカヤー。(親父さんいるかね) <先行発話>

4f アラーアー ユーベカラー チョット ヒジマデー イッタンヤケドー。(ああ 昨夜からちょっと日出まで行ったんだけど) <否定応答>

9m …モー オラナ テアトゥカーンキー モー イーワイ ソリジー。(もういなきやどうにもならないからもういいよ, それで) <依頼取り下げ>

1次 耶馬溪村・少年では<依頼予告><否定応答>の後, 情報交換し, <代案の提示>をする。

1m クワガ イランゴタラ チョット カリ キタンジャ。(鋤があいているようならちょっと借りに来たんだ) <依頼予告>

2f クワ? ミンナ モッテ イ Chol ヤロ。(鋤? みんな持っていったるでしょ) <否定応答>

7m ホンナ トナリニ イテ カッチ ミロー。(それじゃ隣に行行って借りてみよう) <代案の提示>

3次 中津市北部・少年は教科書を借りる場面である。一旦依頼を受諾して教科書を取りに行くが, 学校に忘れてきたことに気づき, 依頼は不成立に終わる。依頼者は代案の情報提供を求めるが, 被依頼者は, あてのない代案を提案をする。

1f …キョーカシヨオサー, カシテホシーンヤケド, (教科書をさ, 貸してほしいんだけど) <依頼>

20m ジャー マッチョッテ。トツテクル。(じゃあ待ってて。取ってくる) <受諾>

22m …オレモー ワスレチョッター。(俺も忘れていた) <情報提供, 否定的>

23f エート ジャー ダレン カリヨーカ, モー。(じゃあ誰に借りようか, もう) <情報要求>

24m チット ホカ アタッテ。(ちょっと他を当たってみて) <代案の提示>

5. 機能要素の具体例

本節では, 如何にして依頼に対する受諾が実現するか, 受諾までの展開 (機能の連鎖), および受諾後の「依頼確認」「謝辞」「返却」に関する機能がどのように表現されるかを, よくあらわれる機能要素について具体的にみていくこととする。

○依頼—受諾

1次 国東町・高年

11f ワケーシー キッチェ モライテートモノジャ。(若い人に切ってもらいたいと思うんです。) <依頼>

12m ボタ キルクレーンコター キライ。(材木を伐るぐらいのことは伐るわい。) <受諾>

1次 豊後高田市呉崎・青年

3f スマンケド ミツグァ カシテクレン? (三つ鋤を貸してくれない?) <依頼>

8m …ソローツ ツコーテ クンナイヤ。(そっと使っておくれよ。) <受諾>

○依頼補強—受諾

依頼補強は, 次のような場合にあらわれやすい。

- ① 相手の否定 (的) 応答や情報要求など, 一度の依頼では受諾が得られないとき。

- ② ①の変異だが、情報交換の中で依頼の内容を具体化する。
- ③ 依頼とは別の話題が挿入された後。話題が終了してから。
- ④ 目的のものとは異なり、依頼の条件が満たされないとき。

2次 日田市大鶴本町・高年 (①の例)

2f エライ アサ ハヨカル ナニゴツカイ。(えらい朝早くから何ごとかい) <被依頼者の先行発話>

3m … アンタゲン イネカリーキオ キョーワ イチンチ ケーチクルルワイネーヤ【ケーチクルリヤ イーネ⁷】(お宅の稲刈り機をきょうは一日貸してくれるといいんだが) <依頼>

4f … ウチモ コンドン ニチヨーニ カローカチ オモーイヨルキー, イッションナランゴツ スリヤ イーコタ イタイ。(我家も今度の日曜日に刈ろうかと思っているから, いっしょにならないようにすれば, いいことはいいですよ) <否定的応答>後に受諾条件が続いている。

5m ンニヤ オタイゲヤ キョー イチンチ カリヤ イマユルキーン【シマユルキーン】, (いや我家はきょう一日刈れば終わるから) <依頼補強>

3次 豊後高田市呉崎・高年 (①の例)

9m … チョット イチマンホドー カシテ クレンカナー。<依頼>

10f … カスンモ カンガエンナランノー。(貸すのも考えなければならぬ) <否定応答>

11m… ソゲナコツ イワンデ カーシチョコレ。(そんなこと言わないで貸しておくれ) <依頼補強>

1次 津久見市保戸島・少年 (②の例)

3m アノー ホン カシェノー。(あのう本貸せよ) <依頼>

6f アー ナンノ ホンニヤ。(ああ何の本なの) <情報要求>

7m アノー シャカイノ ホン カシテ クレンカ。(あの, 社会の本貸してくれないか) <依頼補強>「本」から「社会の本」へと具体化。

2次 中津市北部・少年 (②の例)

5f … アン ソリヤソートナ エイゴン ジシヨ カシテ クレン? (あのそれはそうとね, 英語の辞書を貸してくれない?) <依頼>

6m ウン ナンノ ジシヨダイ。(うん, なんの辞書かい) <情報要求>

7f アン ブンポン ホ。(あの文法のほう) <情報提供>

8m ブンポン ホンナラ アルヨ。(文法の本ならあるよ) <情報提供>

9f フンナ カシテナ。(それじゃ貸してね) <依頼補強⁸>辞書から文法の本へと具体化。

2次 九重町飯田・高年 (④の例)

13m コリヤ カクズコジャラ。アナー ケンズコンホー カシナーイ (これは角スコップじゃないか。剣スコップのほう貸してよ) <依頼補強>剣スコップを借りに来たが, 示されたものが角スコップだったため依頼を補強している。

14f ヘー ケンズコワ コキ アールバイ (はい, 剣スコップはここにあるよ) <受諾>

○依頼確認—受諾

依頼確認は, 依頼—受諾の後, 依頼ユニットと終了部をつなぐ部分にあらわれやすい。その場合は, 依頼の談話を終わらせ, 別れの挨拶に移る前に依頼者が確認のために行うものである。「ホンナ」「フンナ」のような継承的・総括的働きの形式によって特徴づけられる。

⁷ 【 】内の形式の変異形があらわれたことを示す。

⁸ 「それじゃ」の形式は<依頼確認>でよくあらわれる。8mは<受諾>をあらわしていて9fは<依頼確認>とも解釈される。

1次 国東町・高年

15f ホンナー タノムデ。(では頼むよ) <依頼確認>

16m …カッサスライ。(加勢させるわい。) <受諾>

17f フンナー ソー シチェオクレー。(それじゃそうして下さい。) <依頼確認>

18m ヘー イツカラ イコーカ。(はい、いつから行こうか) <受諾>依頼確認が2回繰り返されている。

○依頼予告／一応答

依頼予告から状況説明・依頼の理由説明のための情報提供や依頼の発話へと続く場合、があり、また、依頼予告に対する応答がある場合もある。

1次 姫島村・高年

5m サジョー カロトモチョットンジャケド<依頼予告> ヘー イタンカ, <情報要求> (叉手を借りようと思っていたのだけど早くも行ったのか,)

6f オキー イク モンガ サデガ ネージ ドゲスンノ イツタイ。(沖に行く者が叉手がなくてどうするのかね一体) <情報要求の表現をとった否定的応答>

1次 佐賀関町一尺屋・高年

3m キョーワ ワシャー トット アンタカテー ムシンガ アッチ キタンジャガナ。(きょうはわしはひとつお宅にお願いがあつて来たんだがな) <依頼予告>

4f ソーデスナ。(そうですか) <応答>

○先行発話／被依頼者の先行発話—応答／依頼

先行発話には依頼者の先行発話と被依頼者の先行発話の場合がある。

後者は、訪ねてきた依頼者の様子から何らかの用事を察して被依頼者が発する。

1次 姫島村・高年 (依頼者の先行発話の例)

3m ゴーヤンナ モー イタンカナ タコベー。(五郎さんはもう行ったのかね、蛸壺漁に。) <叉手を借りるために所在を確認する先行発話>

4f タコベー イタ。(蛸壺漁に行った) <情報提供の応答>

2次 日田市大鶴本町・高年 (再掲) (被依頼者の先行発話の例)

2f エライ アサ ハヨカル ナニゴツカイ。(えらい朝早くから何ごとかい) <被依頼者の先行発話>依頼補強であげた、この発話が「被依頼者の先行発話」の例である。依頼者の依頼の発話を促進する働きをする。次の発話で<依頼>が続きやすい。

3m …アンタゲン イネカリーキオ キョーワ イチンチ ケーチクルルワイネーヤ【ケーチクルリャイーネ⁹】(お宅の稲刈り機をきょうは一日貸してくれるといいんだが) <依頼>

4f …ウチモ コンドン ニチヨーニ カローカチ オモーイヨルキー, イッションナランゴツ スリャイーコタ イタイ。(我家も今度の日曜日に刈ろうかと思っているから、いっしょにならないようにすれば、いいことはいいですよ) <否定的応答>後に受諾条件が続いている。

5m ンニャ オタイゲヤ キョー イチンチ カリヤ イマユルキーン【シマユルキーン】、(いや我家はきょう一日刈れば終わるから) <依頼補強>

○返却約束—応答／受諾

3次 中津江村・高年

⁹ 【 】内の形式の変異形があらわれたことを示す。

33m マタ オワツタラ カエシ キマス。(また終わったら返しに来ます) <返却約束>

34f ハイ。<応答>

2次 中津江村・青年

13m バンガテァ モドシ クルキナー。(夕方には戻しにくるからね) <返却約束>

14f マー サワガンデン イーデスバイ。(まあそんなに急がなくてもいいですよ。) <返却約束に対する否定応答>

2次 蒲江町深島・高年

7m ビンガ アツタラー, ソノトキナ ハラウワー。(船の便があったらその時には返すよ。) <返却約束>

8f イツデム イーワー。モツテイカ イーワー (いつでもいいよ。持っていけばいいよ) <否定応答>
<受諾>

○返却要求—応答

3次 豊後高田市呉崎・高年

16f マー ワスレンヨーニ モツテキテオクレ。(まあ忘れないように持ってきておくれ) <返却要求>

17m アサ ハヨカラ ホント スイマセン。<謝意の表示, 配慮の表現>

○謝辞—応答

<謝辞>は高年・青年・少年とも2次・3次に現れる。1次の収録資料には謝辞があらわれないことが特徴と言える。

2次 日田市大鶴本町・高年

7m ソゲーユーチ ケーチクルラー ホント ウレシー。オイゲー タスカールキ, ホンナラ アン カリ キマス, サイナラー。(そう言って貸してくれればほんとううれしい。我家は助かるから, じゃああの借りにきます, さようなら) <謝辞>の後は<依頼確認>と終了部の別れの挨拶が続く。

2次 直入町長湯・高年 (この談話のみ, 謝辞の言葉だけではなくお礼の品物を渡す)

21m コラ モー ホンノー マー コラ キモチヤーケンドー ヤツガイニデン ノンジクレナー。(これはもうほんのまあこれは気持ちだけど晩酌にでも飲んでください) <謝辞>

22f モーアンタ ソゲンコト カンモチ クレナーイーニー。(もうあなたそんなことかまわなくてくれなきゃいいのに) <謝辞に対する否定応答>

2次 緒方町・青年

29m ホンナー スンマセーン。(じゃあすみません) <謝辞>

30f ハーイ ドーモー。(はいどうも) <応答>

○受諾確認

依頼のユニットの終盤に被依頼者が談話を終了させようとして希に現れる。1次少年層と3次高年層の談話に見られる。

1次 津久見市保戸島・少年

3m アノー ホン カシェノー。(あのう本貸せよ) <依頼>

4f コゲー ハヨーカラ ナンスンノカイ。(こんなに早くから何するの) <被依頼者の先行発話>
<情報交換>

<試験の範囲についての話題>

18f ンナ ホンナラ ホン アノー ホンワ アトカラ モツテ イツテヤルケ。(じゃああのう本はあと

から持って行ってやるから) <受諾確認>

ここでは「依頼」に対する「受諾」の明示がなく、「情報交換」「話題」の後「受諾確認」があらわれる。

3次 九重町飯田・高年

「依頼」—「受諾」のユニットが終わり、「猪」の話題の後

12f ナラ、ヤマニ イッテミテ ホッチョクレー。(それなら山に行ってみて<筍を>掘っておくれ) <受諾確認>

3次 姫島村・高年 (依頼や依頼確認が行われ、さらに茶のすすめ—断りの後、発話番号で言えば16/18という終末部であらわれる。

16f ハイ ハイ。ンナ ユーチョコ ユーチョコ。(はいはい。では言っておく、言っておく) <受諾確認>

17m ンー。ホンナ タノムナ。(うん、それなら頼むね) <依頼確認>

6. 「依頼」の方略の世代差

この節では、収録年ごとに各世代を比較し、世代比較を行う。第2次の収録については、杉村(2014:36)で少年層の特徴を次のように2つとらえた。

① 少年層では「受諾」の明示のないものが目立つ。鶴見町大島の宿題のノート貸借では、「依頼」「応答」の後<数学の話題><教師からの伝言>、<陸上の話題>が連続してそのまま終了部になっている。また、耶馬溪町の自転車の空気入れ貸借では<空気入れを探すやり取り><テレビ番組の話題>の後、終了部の別れの挨拶となる。「受諾」は明示がなくても成立はしている。

② なかなか受諾が行われない。その理由はいきなり、あるいは簡単すぎる「情報提供」のあとすぐ「依頼」の発話をしているため相手の「情報要求」や「否定応答」の反応が続くためであると考えた。

1次と3次でも同様であるかを検討する。

1次

高年層

表2

依頼開始番号 (場面数)	受諾までの発話数
1 (2 場面)	1, 3
2 (1 場面)	1
3 (1 場面)	1
4 (1 場面)	1
6 (1 場面)	1

高年層の6場面では「受諾」の明示のないものはない。本題部に入って1つ目の発話の「依頼」が2場面あるが、次または3つ目に「受諾」している。その他4場面は「依頼」の前に「依頼予告」や情報交換があり、いずれも次の発話で「受諾」している。「依頼」が始まるのはむしろ遅く、「受諾」は早い。

青年層

表3

依頼開始番号 (場面数)	受諾までの発話数
1 (8 場面)	1, 3, 5, 7, 9, 12, 19
3 (1 場面)	5
7 (1 場面)	1

青年層の10場面では「受諾」の明示のないものはない。本題部に入って1つ目の発話の「依頼」が8場面ある。「依頼」の始まりは早い「受諾」まではむしろ遅い。残りの2場面は情報交換のあとの3, 7番目の発話で「依頼」が行われる。

少年層

表 4

依頼開始番号（場面数）	受諾までの発話数
1（3場面）	1, 5, 7

少年層では1場面では依頼が不成立で、「代案提示」になる。残り4場面中1場面で「受諾」の明示がない。津久見市保戸島では、本題部開始後1つ目で「依頼」アノー ホン カシエノー（あのう本を貸せよ）が行われるが、情報交換、試験範囲の話題のあとでも「受諾」の明示はなく、代わって「受諾確認」ホンナラ ホンワ アトカラ モッテ イッテ ヤルケ（じゃあ本はあとから持って行ってやるから）があらわれる。「依頼」の始まりは早いがその後「受諾」までの長さは、場面数が少なく、何とも言えない。

以上、各年層の特徴をまとめると、

高年層では「依頼」が始まるのはむしろ遅く、「受諾」は早い。

青年層では「依頼」の始まりは早いが「受諾」まではむしろ遅い。

少年層では「受諾」の明示のないものが1場面ある。「依頼」の始まりは早い。

2次についても、1次や3次と比較するため同じように整理しなおして示す。

高年層

表 5

依頼開始番号（場面数）	受諾までの発話数
1（2場面）	1,11
2（3場面）	3 × 2, 6
3（1場面）	1
4（2場面）	1 × 2
5（1場面）	1
6（1場面）	1

本題部に入ってから依頼開始は、早い場合も遅い場合もあるが、「受諾」は早く、次の発話で現れる場合が多い。

青年層

表 6

依頼開始番号（場面数）	受諾までの発話数
1（4場面）	1 × 3, 9
2（1場面）	1
4（1場面）	1
5（1場面）	1
6（1場面）	1
12（1場面）	1

高年層と同じく、本題部に入ってから依頼開始は、早い場合も遅い場合もあるが、「受諾」は早く、次の発話で現れる場合が多い。

少年層

表 7

依頼開始番号（場面数）	受諾までの発話数
1（2場面）	3, 19
2（4場面）	1 × 2, 3 × 2
3（1場面）	11
4（1場面）	1

高年層、青年層に較べて本題部にはいつてから「依頼」開始までは早く、「受諾」までの発話数は遅い。

3次
高年層
表8

依頼開始番号（場面数）	受諾までの発話数
1（3場面）	1×3
2（3場面）	1×2, 3
2（せ）（1場面）	3
2（よ）（1場面）	1

本題部に入って最初の発話で依頼が行われる1（3場面）の中の1つは「依頼予告」である。これに対して次の発話で「受諾」がおこなわれているから「受諾までの発話数」は1になる。2（せ）は「先行発話」、2（よ）は「依頼予告」である。これらに対して「受諾」が行われている。

2「依頼」発話の前には「依頼予告」、被依頼者の「先行発話」が先行する。本題部開始後すぐに「依頼」に入る場合もあるが、その場合でも「配慮の表現」（アーン チョット ワリーケンドガ）が先行したりする。高年層ではこのように、始まりはいきなりではないが、早く、「依頼」後の「受諾」も比較的早い。

青年層
表9

依頼開始番号（場面数）	受諾までの発話数
1（3場面）	1, 3, 5
2（8場面）	1×6, 3×2
3（2場面）	1, 15

青年層はすべて本題部開始後3発話までに「依頼」が行われる。「依頼」の後すぐに「受諾」するものが8場面ある（「受諾までの発話数」1の合計が8）が、このうち2場面は「回覧板回送」という比較的軽い依頼である。また、被依頼者による「先行発話」（例えば、九重町飯田の2fオハヨー。ドーシタン ヤスミナニ ハエーネー。<どうしたの、休みなのに早いね>）が7場面にあらわれる。相手に促されれば、「依頼」は早くあらわれる。

青年層は「依頼」も「受諾」も早い場面が多い。

少年層
表10

依頼開始番号（場面数）	受諾までの発話数
1（4場面）	1, 3, 5, 19
2（5場面）	1, 3, 5×2, 7
7（2場面）	1, 1
14（1場面）	1

「受諾」の表示がない場面は東国東郡姫島村である。2f「先行発話」、3m「依頼」の後クラブのサッカーの話題が続く、終了部の別れの挨拶となる。

少年層では比較的早く「依頼」が行われる場面と「依頼予告」「先行発話」「話題」の後で「依頼」が遅くあらわれる場面がある。前者では受諾までの発話数は少ない場合も多い場合もある。後者では「依頼」後の「受諾」は早い。被依頼者による「先行発話」が7場面にあらわれる。そのうち5場面は1つめの発話が「先行発話」、2つめの発話が「依頼」と続く。

3次の世代差をまとめると、

高年層では、「依頼」はいきなりではないが早く、「依頼」後の受諾は比較的早い。

青年層は「依頼」も「受諾」も早い場面が多い。

少年層では「受諾」の明示のないものが1場面ある。「依頼」は早い場合と遅い場合があり、後者では「受諾」は早い。

7. 世代差と経年差

これまで見てきた依頼開始と受諾までの発話数を世代差、経年差で比較するために平均値を出すと次のようになる。依頼内容の重さ、話し手の個性、話し手同士の関係（親密さなど）やその時の状況などや個々の談話ごとの諸条件で数値は変化するため、開始や受諾が飛び抜けて遅い場合もあるので数値は影響を受けやすいが、あえて比較のために数値化して比較する。

表 11

受諾までの発話数	1次	2次	3次
高年	1.3	2.9	1.5
青年	6.2	1.9	2.8
少年	4.3	5.3	4.3

「受諾までの発話数」は「依頼」から「受諾」までの発話数（平均値）を示したものの。

表 12

依頼開始番号	1次	2次	3次
高年	2	3	1.6
青年	1.8	3.7	1.9
少年	1	2.1	3.3

「依頼開始番号」とは、本題部に入ってから何番目の発話（平均値）に「依頼」があらわれるかを示したものの。

3つの収録年代を全体としてみると、①少年層で「受諾」の明示がない場合が目立つということは、既に記したようにどの収録年代でも言える（1次津久見市保戸島の1場面、2次鶴見町大島と耶馬溪町の2場面、3次姫島村の1場面）。2次の収録でみた②少年層の「受諾」までが遅いという特徴は1次青年の例外的遅さを除いて概ね指摘できる。これに関連して、少年層の「依頼」が早いという特徴は、1次資料ではさらに早く（高年2、青年1.8に対して少年1）、3次では逆に遅い（高、青年1.9に対して少年3.3）。個別に見ると、他の世代でも依頼開始が早いことも有り、また、少年層でもかえって遅い場合もある。

8. ユニットの世代差・経年差

1次であらわれるユニットを基準にして2次、3次で新たにあらわれるユニットをみることによって世代差をあきらかにする。

ユニットの世代差（「数値」は異なり数を示す。ひとつしか現れない場合は示さない。「/」は別のユニットが続くまたは相手の反応がない場合を示す。（ ）付きは被依頼者の行う発話機能。）

1次収録資料

高年

依頼—受諾 6（依頼）/2
 依頼確認—受諾 依頼確認—応答 依頼確認 /2
 依頼予告—受諾 依頼予告 /2
 先行発話—受諾

青年

依頼—受諾 2 依頼 /2 + 依頼—依頼補強 / 依頼—依頼補強—受諾 5
 依頼確認—受諾 6 依頼確認—応答 4 依頼確認 /2
 依頼予告 /
 +（先行発話）—依頼予告—受諾

少年

依頼—受諾 依頼—依頼補強—受諾（依頼—受諾の後、依頼補強—受諾というパターンもある）
 依頼確認—応答 3 依頼確認 /
 依頼予告 /

+ (返却要求) — 応答

+ 受諾確認 — 応答

+の印をしたものが高年層には無く、青年、少年にはあるユニットである。青年・少年層では依頼ユニットの中に「依頼補強」が追加される。「依頼」に対する「否定応答」や「情報交換（事情の質問とそれに対する事情説明など）」のあと再度「依頼」をする場合である¹⁰。依頼内容が具体化する場合もある¹¹。青年層では「被依頼者の先行発話」で、訪ねてきた依頼者に用事の内容を尋ね、「依頼」を促すユニットがある。少年層では被依頼者の「返却要求」を行うユニット、「受諾」が示されず「受諾確認」で代替するユニットがある。

ユニットの種類でも（高年4、青年4、少年5）、組み合わせの種類でも（高年8、青年9、少年8）数値で見ると大差はない。

2次収録資料

高年

依頼—受諾 2 依頼—依頼補強 依頼 /

依頼確認—受諾 9 依頼確認—応答 2 依頼確認 /6

先行発話—依頼—返却約束—受諾 先行発話—依頼—受諾—依頼補強—受諾

返却約束—応答 3 返却約束 /2

謝辞—応答 3 謝辞 /

依頼予告—受諾 依頼予告—依頼—受諾

(先行発話) — 依頼—依頼補強—受諾 (先行発話) — 依頼予告—依頼—受諾

青年

依頼—受諾 3 依頼—受諾—依頼補強—受諾 依頼—依頼補強—受諾

依頼確認—応答 6 依頼確認—受諾 3 依頼確認 /2

先行発話—依頼—受諾 3 先行発話—依頼予告 /¹²… 依頼取り下げ

(先行発話) — 依頼—受諾

+ 返却要求—応答 2

謝辞—応答 3 謝辞 /

少年

依頼—受諾 依頼—依頼補強 依頼—依頼補強—受諾 依頼—依頼確認 /

¹⁰ 大野郡緒方町青年では、スギウエオ スルツチャーキー、デテクレナー チュー ハナッシャガナ（杉植えをするというので出ておくれっていう話だけどね）という＜依頼＞に対してマー デキンワー。（あら、行けないわよ）と＜否定応答＞があり、ドゲーカシチャー マー デチ クレナー（どうかしてまあ出ておくれよ）と＜依頼補強＞する。大南町戸次の青年では、エイガン フダオ ウッチェ モライテンジャガナー。（映画の券を売ってもらいたいんだがね）という＜依頼＞に対して イツゴロ スンノ（いつ上映するの）という＜情報要求＞で始まる「情報交換」、＜映画上映についての話題＞が続いた後、ホンナラ アンター ドンクライ デルカヤ、フダー。（それじゃああんたはどのくらい売ってもらえるかね）と＜依頼補強＞をして受諾を要求している。

¹¹ 津久見市保戸島の少年では「依頼補強」②の例で既にあげたように、ホン カシェノー（本貸せよ）という概略的＜依頼＞の後、ソゲー ハヨーカラ ナンスンノカイ（こんなに早くから何するの）という＜情報要求＞から始まる「情報交換」を経て、ナンノ ホンニヤ（何の本なの）という＜情報要求＞に答えて具体的にアノー シャカイノ ホンカシテ クレンカと＜依頼補強＞している。

¹² ＜依頼予告＞の後、「情報交換」で不可能なことが分かり、＜依頼＞の取り下げをする。山香町・青年 7m シャカンニー カッセチ モロートモタンジャケンドー オラナ モー テアトウカー（左官に加勢してもらおうと思ったんだけど、＜先行発話＞いないならもうどうしようもない＜情報提供＞）8f キョジャネト ワーリーンカー。（今日じゃないと悪いのかなあ）＜情報要求＞9m モー ハエーホガ イーンジャケンドー、モー オラナ テアトウカーンキー モーイーワイ ソリジー。（もう早いほうがいいんだけど、もういなきゃどうにもならないから、もういいよ、それで）＜情報提供＞＜依頼取り下げ＞

依頼確認—応答 2

先行発話—依頼—受諾 先行発話—依頼—依頼補強—受諾
 (先行発話)—依頼—受諾 (先行発話)—依頼—依頼補強—受諾
 返却要求—応答 2 返却要求—返却約束—応答
 謝辞—応答 2 謝辞 /

2次収録資料では青年・少年で<返却要求>があらわれるが、高年ではあらわれない。

ユニットの種類でも(高年 7, 青年 6, 少年 5), 組み合わせの種類でも(高年 16, 青年 12, 少年 13) 数値で見ると大差はない。

3次収録資料

高年

依頼—受諾 5 依頼—受諾—依頼補強—受諾
 依頼確認—応答 5 依頼確認—受諾 5 依頼確認 /4
 受諾確認 /
 依頼予告—依頼—受諾 3 依頼予告—依頼 / 依頼予告—先行発話—依頼—受諾
 先行発話—依頼予告—受諾
 (先行発話)—依頼—受諾 (先行発話)—依頼予告—受諾
 返却約束—依頼補強 返却約束—応答 返却約束 /
 返却要求—応答 返却要求 /2
 謝辞—応答 2 謝辞 /2

青年

依頼—受諾 依頼—依頼補強—受諾 2 依頼—先行発話—受諾¹³
 依頼確認—応答 4 依頼確認—受諾 4 依頼確認 /2
 先行発話—依頼—受諾 (さらに依頼補強—受諾が続く場合あり) 先行発話—受諾
 (先行発話)—依頼—受諾 3 (先行発話)—依頼予告—依頼—受諾 (先行発話)—依頼予告—受諾
 返却約束—応答 2
 返却要求 /
 謝辞—応答 7 謝辞 /

少年

依頼—受諾 3 依頼—依頼補強—返却約束—受諾 2
 依頼確認 /2
 依頼予告—先行発話—依頼—受諾 2
 先行発話—依頼—依頼補強—受諾 先行発話—依頼—依頼補強—返却要求—応答
 (先行発話)—依頼—受諾 3 (先行発話)—依頼予告—依頼—受諾 (先行発話)—依頼—返却約束—依頼補強—受諾 3 他に返却要求との組み合わせもある
 返却約束—応答 5 返却約束 /
 返却要求—応答 2 返却要求 /

¹³ 3次長湯・青年では、5年生の教科書を借りる<依頼>に分数の参考書があるかどうかを尋ねる<先行発話>が続く。それに対して積極的に<受諾>が行われる。会話の要点は次のとおり。3f キョーカシヨ カリニ キタンヤケド。<依頼予告> 4m チョード モッチョーワ<受諾> 5f チョット カリョーカナ—<依頼>ブンスー ショート オモッチョーンヤケド, ナンカ オモシロイノ モッチョン (分数の授業をしようと思っているんだけど何か面白い教材を持っている?) <先行発話> 6m コレ ツカエバ イーワ。(これを使うといいよ) <受諾>。<依頼予告>としたものがすでに<依頼>であり, <依頼>としたものが<依頼確認>であるとすれば, <先行発話>は新たな<依頼>の始まりとなる。

謝辞—応答2 謝辞—返却約束—応答2 謝辞/

3次収録資料では高年層ですべてのユニットがあらわれる。青年層・少年層で新たにあらわれるユニットはない。むしろ、〈受諾確認〉は高年層にのみあらわれる。ユニットの種類でも（高年9, 青年7, 少年8）、組み合わせの種類でも（高年19, 青年16, 少年17）数値で見ると大差はない。

以上を一覧にしたものが下の表である。

表13 ユニットの種類, 組み合わせの各世代, 経年差

	ユニットの種類の数			ユニットの組み合わせ		
	高年	青年	少年	高年	青年	少年
1次資料	4	4	5	8	9	8
2次資料	7	6	5	16	12	13
3次資料	9	7	8	19	16	17

ユニットの種類は各世代での差はあまりない。収録年では2次・3次がやや多い。ユニットの組み合わせの数は1次収録資料に比べて2次・3次となるに従って増えている。ただし、資料の場面数も後年の資料数が増えている（1次23, 2次30, 3次36）ので経年差があると断言はできない。

8. 1 ユニットの種類の世代差, 経年差

○は該当する種類がある場合, ×はない場合。

表14

1次	依頼	依頼確認	依頼予告	先行発話	被先行発話 ¹⁴	返却要求	受諾確認
高年	○	○	○	○	×	×	×
青年	○	○	○	×	○	×	×
少年	○	○	○	×	×	○	○

表15

2次	依頼	依頼確認	依頼予告	先行発話	被先行発話	返却約束	返却要求	謝辞
高年	○	○	○	○	○	○	×	○
青年	○	○	×	○	○	×	○	○
少年	○	○	×	○	×	×	○	○

表16

3次	依頼	依頼確認	依頼予告	先行発話	被先行発話	返却約束	返却要求	謝辞	受諾確認
高年	○	○	○	○	○	○	○	○	○
青年	○	○	×	○	○	○	○	○	×
少年	○	○	○	○	○	○	○	○	×

以上3表によって、世代ごとに60年間の実時間の変化を比較する。

1次であらわれるユニットを基準にして2次, 3次で新たにあらわれるユニットをみることによって経年差をあきらかにする。

高年層

1次と2次のユニットの比較

2次で新たにあらわれるユニットは

返却の約束

謝辞

¹⁴ 被依頼者の先行発話。

被依頼者の先行発話

の3つである。1次にあらわれて2次にあらわれないものはない。

後の収録年ほど分析の対象となった談話の数が増えているので、当たらないかもしれないが、2次の方が依頼の方略が増えているのかもしれない。

1次2次と3次のユニットの比較

3次で新たにあらわれるユニットは

受諾確認

返却要求

の2つである。「返却要求」は、1次2次には見られなかった特徴と言える。

「謝辞」はどの世代でも1次ではあらわれない。

青年層

1次と2次のユニットの比較

2次で新たにあらわれるユニットは

先行発話

返却要求

謝辞

の3つである。

1次2次と3次のユニットの比較

3次で新たにあらわれるユニットは

返却約束

の1つのみ。

以上、2次、3次であらたにあらわれたユニットは高年層でもあらわれており、それほどめずらしいものでもない。

少年層

1次と2次のユニットの比較

2次で新たにあらわれるユニットは

先行発話

謝辞

の2つだが、依頼予告、受諾確認が減り、数は5つで変わらない。

1次2次と3次のユニットの比較

3次で新たにあらわれるユニットは

被依頼者の先行発話

返却約束

の2つである。

少年層において1次では返却要求があらわれ、3次で返却約束があらわれるのは、1次の資料が少ないための偶然であろう。高年層では返却約束が2次で、返却要求が3次であらわれており、これらはどちらが先とも言えない。

おわりに

大分県方言の60年間3次に渡る朝の依頼の場面の談話を資料にして、依頼者と被依頼者の相互作用においてどんな機能要素が現れるか、機能要素がどのように連鎖して依頼の方略が展開するかを見てきた。

年代差については3つの収録年代を全体としてみると、①少年層で「受諾」の明示がない場合が目立つということは、既に記したようにどの収録年代でも言える（1次の1場面、2次の2場面、3次の1場面）。2

次の収録資料でみた②少年層の「受諾」までが遅いという特徴は1次青年の例外的遅さを除いて概ね指摘できる。これに関連して、少年層の「依頼」が早いという特徴は、1次ではさらに早く、3次では逆に遅い。個別的に見ると、他の世代でも依頼開始が早いことも有り、また、少年層でもかえって遅い場合もある。

経年差においては、後年ほど機能要素の連鎖であるユニットの種類、組み合わせの数が増えていく(2次・3次で「返却約束」と「謝辞」増)結果が出たが、分析対象の数の違いもあり、実際に増えているとも言えない。

全国各地の方言における依頼談話の分析を進め、大分県方言の分析で得られた結果の一般性について今後検討したい。

参考文献(杉村 2013, 2014 に追加)

井上文子(編) 2014 『方言談話の地域差と世代差に関する研究 成果報告書』国立国語研究所共同研究報告 13-04

亀山大輔 2008 談話研究—その従来の視点と将来への展望『方言研究の前衛』桂書房

杉村孝夫 2013 依頼の場面の談話分析—大分県方言談話資料による—、『福岡教育大学紀要』第62号第1分冊

杉村孝夫 2014 依頼の場面の談話分析(2)—大分県方言第2次調査資料による—、『福岡教育大学紀要』第63号第1分冊

野田尚史・高山善行・小林隆編 2014 『日本語の配慮表現の多様性』くろしお出版

